

## 戦略Ⅲ「売る力」の強化

### 1 農林水産物の魅力発信と販路の拡大

#### (1)「とくしまブランド」の展開

##### 1)国内販路の拡大

#### 目指すべき将来の姿

県産農林水産物や食品の魅力が広く認知され、その品質が高く評価されることで、有利販売へとつながり、生産者や事業者の所得が向上しています。

#### 現状・課題

他産地のブランド農林水産物との販売競争が激しくなる中、民間の知恵や活力を最大限活用し、官民一体となった「オール徳島」による、魅力の最大化や発信力の強化を図り、販売拡大へとつなげていくことが求められています。

また、トラック輸送能力の不足や運賃の上昇が見込まれていることから、合理的な物流体制の構築が求められています。

#### 主な取組

- 本県農林水産物の主な出荷先である関西圏はもとより、首都圏や北海道、東北をはじめとする開拓余地のある地域での新たな販路の拡大を図るため、「公益社団法人徳島県産業国際化支援機構」を核として、一次産品だけでなく、加工品や工芸品、観光、文化といった本県魅力を一体的に発信することで相乗効果を生み出すプロモーションを展開します。
- 農林水産物のブランド力の向上を図るため、高いブランド力・発信力・商品開発力を持つ民間企業との連携や事業者自身のブランディング力の底上げを支援するとともに、PRトラックを活用した魅力発信を強化します。
- 消費者や実需者の認知度向上を図り、販売拡大へとつなげるため、卸売市場との連携強化による量販店でのフェアやバイヤーの産地招聘を実施します。
- 民間の発信力を活用し「徳島ファン」を創出するため、「阿波ふうどスペシャリスト\*」や「阿波ふうど繁盛店\*」と連携したSNS等による発信を強化します。
- 首都圏等の大消費地への販路拡大による生産者の所得向上を実現するため、モーダルシフト\*の推進や物流拠点の構築などの取組を支援し、農林水産物の県内物流効率化や遠方地への最適な物流構築を促進します。

#### 工程表

具体的な取組	R7	R8	R9	R10	R11
「徳島県産業国際化支援機構」と連携したプロモーション	本県魅力を一体的に発信するプロモーション				
ブランド力を向上させる魅力発信	発信力や開発力を持つ企業との連携・PRトラックの活用				
卸売市場と連携した販売強化	量販店でのフェア開催・バイヤーの産地招聘				
SNS等による発信強化	阿波ふうどスペシャリスト等と連携したSNSでの発信強化				
物流体制の構築	モーダルシフト推進など課題解決に向けた取組を支援				

1 農林水産物の魅力発信と販路の拡大

(1) 「とくしまブランド」の展開

**2) 選ばれる六次産業化の推進**

目指すべき将来の姿

本県の農林水産物や地域資源を活用し、収益性があり、選ばれる6次産業化商品等が開発・改良されるとともに、「オール徳島」のプロモーション等により販路が拡大し、農山漁村における所得が向上しています。

現状・課題

6次産業化\*により、経営の多角化、所得の向上等が見込めるが、商品開発や食品加工、食品衛生、販促活動等の幅広い知識や人脈等が必要となることから、資力のない新規・小規模事業者は6次産業化への着手が困難な状況です。

このため、新規・小規模事業者を始めとする6次産業化志向事業者に対し、新規創業から販路拡大までを切れ目なく支援する体制の構築が必要となっています。

主な取組

- 6次産業化人材を育成するため、6次産業化に取り組む上で必要な幅広い知識を学ぶ場を提供するとともに、6次産業化志向事業者を支援する相談窓口を運営します。
- 選ばれる商品開発・改良のため、専門家の派遣や異業種等と連携した商品開発支援事業等を実施します。
- 開発された商品の販路拡大のため、「県内商談会」の実施や、全国展開のための「首都圏商談会」等への出展支援を行うとともに、「公益社団法人徳島県産業国際化支援機構」等の関係団体と連携し、「オール徳島」のプロモーションを支援します。

工程表

具体的な取組	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11
人材育成研修会の開催と相談窓口の運営	研修会の開催・相談窓口の運営				
選ばれる商品開発・改良の支援	商品開発支援事業の実施・専門家の派遣				
販路拡大の支援	県内や首都圏等での商談会への出展支援				



商品開発支援事業により  
開発・改良された商品



スーパーマーケットトレードショー  
(幕張メッセ)

I 「はたらく力」の強化

II 「つくる力」の強化

III 「売る力」の強化

IV 「防災力」の強化

## 1 農林水産物の魅力発信と販路の拡大

## (1) 「とくしまブランド」の展開

**3) 輸出の拡大**

## 目指すべき将来の姿

県産農林水産物や食品が国内外で広く認知され、高く評価されるとともに、「輸出」が、本県農林水産業の維持・発展に大きな役割を果たしています。

## 現状・課題

国内の食市場が縮小している中、マーケットイン\*の発想に基づく戦略的な農林水産物の輸出促進による、「持続性の高い農林水産業」の発展に向けた取り組みが求められている。

## 主な取組

- 販売ルートの拡充のため、「公益社団法人徳島県産業国際化支援機構」や民間企業等の関係団体と連携し、主要輸出先のアジアを重点地域として商流を拡大するとともに、北米や欧州、ハラルなど新たな市場の開拓を図ります。
- 輸出型産地の拡大のため、検疫対応や国際認証の取得など、輸出先のニーズや規制に対応した産地育成を行うとともに、生産・流通・販売を一体的に行う輸出基地づくりを支援します。
- 輸出に取り組む事業者を育成するため、関係団体等との連携により、海外展開を目指す意欲的な事業者の持つ課題を幅広くサポートし、貿易に係る実践的な取り組みを支援します。

## 工程表

具体的な取組	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11
販売ルートの拡充	ターゲット国に即したプロモーションの実施				
輸出型産地づくりの推進	ニーズや規制に対応した産地の育成や輸出基地づくりの支援				
輸出に取り組む事業者の育成	事業者の掘り起こし、実践的な商談や貿易事務の伴走支援				



シンガポールにおけるフェア



生産・流通・販売を一体的に行う「なると金時」の輸出基地での出荷作業

1 農林水産物の魅力発信と販路の拡大

(1) 「とくしまブランド」の展開

**4) 成熟した森林資源の利用促進**

目指すべき将来の姿

あらゆる建築物で木造・木質化が進み、生活の隅々まで木材が取り入れられるなど、国産材使用の恩恵が再認識され、森林の再生に繋がる適正な価格で取引が行われ、森林資源の循環利用が進んでいます。

現状・課題

カーボンニュートラルに資する森林資源の循環利用を進めるため、林業・木材産業への理解を醸成し、木材の率先利用に繋げる取り組みが求められています。

しかしながら、木材価格の低迷により、森林所有者の経営意欲は減退しており、山元で木材の再生産を可能とする適正な収益が得られるよう、増加している大径材の価値を高める取組が急務になっています。あわせて、少子高齢化で低層住宅などの木材需要が減少していることから、まだ利用が少ない非住宅や中高層建築物など新たな分野において、県産材の活用を図る必要があります。

また、今後は県内の森林資源がより一層充実することから、東・東南アジアなど木材需要の増加が見込まれる海外に向けた販路拡大が重要となっています。

主な取組

- 木材の付加価値を高めるため、利用の少ない大径材\*に対応する加工流通体制を整備し、新製品や寸法安定性を確保した高品質な製品の供給体制の構築に取り組みます。
- 国内や海外への販路と需要の拡大を図るため、地域の製材工場と大規模工場の連携による生産体制の強化や、需要者のニーズを捉えた県産材のPR等に取り組みます。
- 非住宅や中高層建築物、公共建築物での県産材利用を拡大するため、木材・建築関係団体や市町村と連携し、建築物への木材利用の促進を図り、あわせて、川中では製材工場の体質強化や担い手の確保、川下では需要者を木造・木質化\*へ導く、木材利用に秀でた人材の育成を進めます。
- 木材利用の輪を広げるため、「徳島木のおもちゃ美術館\*」の魅力向上と「とくしますぎの子木育広場\*」の充実などにより、個人や企業を対象とした、幅広い木育\*活動を展開します。

工程表

具体的な取組	R7	R8	R9	R10	R11
新たな木材加工流通体制の整備	加工流通体制の構築		新たな製材品の需要拡大支援		
国内外への県産材の販路拡大	生産体制の強化		ニーズ把握による販売促進策強化		
建築物の木造・木質化推進	連携体制の構築		人材育成研修の実施		
木育活動の推進	木育施設の魅力向上		木育活動の強化		

1 農林水産物の魅力発信と販路の拡大

(1) 「とくしまブランド」の展開

**5) マーケットイン型の「浜づくり」**

目指すべき将来の姿

マーケットイン型の浜づくりへの転換により、産地の価格形成力が強化され、漁業所得が向上しています。

現状・課題

販売取扱高の減少により、漁獲物を集出荷する産地市場の価格形成力が低下するとともに、漁業者が負担する出荷コストが増加する中、漁業所得の向上を図るには、漁獲物を集約し、「定時・定量・定規格」「食の安全・安心」など、多様化するニーズに応えられる浜の育成が急務となっています。

主な取組

- 経営の合理化等により漁業所得の向上を図るため、漁村地域が連携し策定した「浜の活力再生広域プラン\*」に基づく「浜の機能再編(漁協合併、事業統合)」を促進します。
- 鳴門わかめのブランド力を強化するため、適正な食品表示とトレーサビリティシステムを備えたわかめ加工業者を認定する「徳島県鳴門わかめ認証制度\*」を推進するとともに、消費者に対する制度の浸透を図ります。
- 「阿波さつき」などの県産水産物の販売力強化を図るため、高値取引が期待される海外や首都圏等における認知度向上や販路拡大に取り組みます。
- 品質面、コスト面で競争力の高い生産流通構造を確立するため、漁協等が取り組む出荷・流通施設の整備等を支援します。
- 県産水産物の価格形成力を高めるため、流通拠点漁港において、集出荷機能を集約化し、県内初となる「高度衛生管理型荷さばき施設\*」を整備します。

工程表

具体的な取組	R7	R8	R9	R10	R11
「広域浜プラン」に基づく「浜の機能再編」の促進	関係機関と連携した支援				
鳴門わかめ認証制度の普及推進	認証取得促進、制度の浸透				
県産水産物の認知度向上・販路拡大	販促活動の実施				
競争力の高い生産流通構造の確立	出荷・流通施設の整備等を支援				
集出荷機能の集約化と高度衛生化	高度衛生管理型荷さばき施設の整備	集出荷機能の集約化			



県産養殖サツキマス  
「阿波さつき」



鳴門わかめ認証マーク

## 2 地域資源を活用した農山漁村の魅力向上

### (1) 地域の保全と関係人口の創出

#### 1) 地域で育む農山漁村づくり

##### 目指すべき将来の姿

地域に根ざした食文化や歴史、景観など魅力ある地域資源を活用した体験や学習の実施及び情報発信などにより、都市と農山漁村との交流が図られています。

##### 現状・課題

過疎・高齢化が進む農山漁村地域では、農林水産業の担い手の減少や耕作放棄地の増加、集落機能の弱体化などにより、農業農村が持つ多面的機能の維持・保全が課題となっています。

また、農山漁村が有する豊かな自然や文化、景観などの地域資源を活用した体験等を通じ、多様な人材が連携し、賑わいを創出することが求められています。

##### 主な取組

- 農用地の多面的機能の維持・保全や耕作放棄地の発生防止を図るため、「日本型直接支払制度\*」を活用し、集落ぐるみで地域農業を支える取組を支援します。
- 関係人口の拡大を図るため、「とくしま農林漁家民宿」の開業支援や体験コンテンツの充実強化等に取り組むとともに、四国各県や関西広域連合と連携した情報発信を実施します。
- 農山漁村地域において、「住民自ら」がコミュニティ維持・運営の自立化に取り組むための基本方針である「将来ビジョン」の作成や、同ビジョン実現に向けた農村型地域運営組織「農村RMO」\*等の設立及びそのスタートアップを支援します。
- 地域内外の多様な人材が連携し、農林水産業を下支えするため、農山漁村活性化の牽引役である「ふるさと水と土指導員\*」の育成及び、企業・大学・NPO法人等の「農山漁村（ふるさと）協働パートナー」と「農山漁村の地域住民」との協働活動を支援します。
- 生物多様性を育む田んぼや農業用施設等への理解を深めるため、「田んぼの学校\*」等の環境学習を開催します。
- 生産者と消費者との交流や体験活動による農林水産業への理解促進などにより、食料生産から消費に至る食の循環を意識した食育を推進するとともに、地域の風土を活かした特産品や食文化の魅力発信を行う。
- 「ジビエ\*」や「漁港を活用した海業（うみぎょう）\*」、「林道フェスタ」等の地域資源を活用したイベント等による交流人口の拡大

##### 工程表

具体的な取組	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11
日本型直接支払制度の活用	次期対策の周知・推進				
とくしま農林漁家民宿の取組支援	受入体制強化や魅力発信				
地域コミュニティの維持・運営の自立化	「将来ビジョン」の作成・実践等の支援				
農山漁村（ふるさと）協働パートナーへの参加促進	制度の周知・推進				
小学生を対象とした「田んぼの学校」等の環境学習を開催	教育機関と連携し推進				
多様な人材の連携による賑わいの創出	地域資源を活用したイベント等の開催				

I 「はたらく力」の強化

II 「つくる力」の強化

III 「売る力」の強化

IV 「防災力」の強化

## 2 地域資源を活用した農山漁村の魅力向上

## (1) 地域の保全と関係人口の創出

**2) 鳥獣被害対策とジビエの利活用**

## 目指すべき将来の姿

管理が必要な野生鳥獣の捕獲を担う若手狩猟者が増え、積極的な捕獲・防護対策により、農林水産物被害や市街地への出没が軽減するとともに、ジビエとしての利活用が広がり、中山間地域の振興や生活環境の保全が図られています。

## 現状・課題

野生鳥獣は、農林水産物への深刻な被害に加え、近年では市街地での出没情報も多く寄せられており、生息域の拡大や更なる被害の発生が懸念されています。

県内の狩猟免許所持者は、60歳以上が3分の2を占め、高齢化が進んでいることから、若手狩猟者の育成・確保が急務となっています。

捕獲したシカやイノシシは「阿波地美栄（ジビエ）」としてブランド化に取り組んでいますが、更なる消費拡大を図るためには安定供給できる対策が必要です。

## 主な取組

- シカやイノシシ等の生息密度の適正化を図るため、市町村が実施する「有害鳥獣捕獲\*」や県が実施する「指定管理鳥獣対策事業\*」等により、年間を通して捕獲圧を強化します。
- 集落主体の鳥獣被害対策の定着を図るため、市町村や関係機関等と連携し、鳥獣の生息状況データ等に基づいた侵入防止柵の設置や環境整備、追い払い等の防護対策に取り組む集落を育成します。
- 若手狩猟者や多様な捕獲の担い手を確保するため、関係部局や企業・団体等と連携し、捕獲技術の習得支援や狩猟の魅力発信等に取り組めます。
- 「阿波地美栄（ジビエ）\*」の消費拡大を図るため、新たな処理加工施設等の整備を支援するとともに、取扱店の拡大や学校給食等の活用等に取り組み、「阿波地美栄（ジビエ）」を身近に感じられる機会を創出します。

## 工程表

具体的な取組	R7	R8	R9	R10	R11
生息密度の適正化に向けた捕獲の強化	「有害鳥獣捕獲」・「指定管理鳥獣対策事業」の推進				
集落主体の鳥獣対策の定着	最新技術や生息状況データを活用した対策の促進				
多様な捕獲の担い手の育成・確保	捕獲技術の習得支援等 狩猟の魅力発信				
「阿波地美栄（ジビエ）」の消費拡大	処理加工施設の整備 取扱店の拡大や学校給食等での活用				



とくしまハンティングスクール  
(くくりわなの架設実習)



阿波地美栄の消費拡大  
(学校給食への提供)

〈戦略Ⅲ 「売る力」の強化に関する指標〉

行動目標	単位	基準値(R5)	目標値(R11)
農畜水産業産出額	億円	1,114	1,225
地域商社等と連携したプロモーション等による マッチング数(累計)	件	48	346
展示会・商談会への出展数(累計)	出展	620	960
県産農林水産物・食品輸出額	億円	41.5	106.3
木材丸太の消費量	万m3	58.3	71.8
「徳島の水産物キャンペーン」参加店舗数(累計)	店舗	407	700
「鳴門わかめ認証制度」の認知度	%	40	46
水産物出荷・流通体制施設等の整備(累計)	箇所	17	23
「将来ビジョン」の作成・実践地区数	地区	38	74
農山漁村(ふるさと)協働パートナーの登録数(累計)	団体	85	103
ジビエ加工施設での処理頭数	頭	2,065	2,200
新規狩猟免許取得者数(累計)	人	154.0	1,050
地域資源を活用したイベント等の実施数(累計)	人	-	20



徳島フェア in 北海道



公共建築物の木質化  
(県庁食堂「CO-CAGE キッチン」)



農山漁村(ふるさと)応援し隊  
(はっさくの収穫)



農業用水利施設等における環境学習  
(田んぼの学校)